一井集

江戸一井筒屋こゝ初売のまを
迎ることなれば毛の毛毛ふり出
芽ぐむ梅の祝の海苔を詠て
開発まる家の屋根より海内清なる乃
玉詞を撰出し四季の景物をつゝ拾く
毋ゝ詠ものゝ清きこゝ拾く
ゝ新年ゝ言葉ゝ売のまち

[illegible]
[illegible]の[illegible]をの〳〵四[illegible]の[illegible]を拾ひ
[illegible]ば[illegible]拾ひ[illegible]
[illegible]百四代[illegible]月之本老人

友人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

祝頌

[illegible]　万松

[illegible]　巴濤

[illegible]　九眠

[illegible]　敬我

[illegible]　[illegible]

[illegible]　松壽

[illegible]　千月

[illegible]の山　子陽

[illegible]や松の色　物史

[illegible]の白作[illegible]ぬうち淑考　物山

[illegible]の鏡の如　廣之種の鏡　出白

[illegible]の如の色　甘外

[illegible]の月[illegible]物の色　浮山

此賀集は[illegible]を[illegible]

蓬萊の神[illegible]の[illegible]の友　一鼎

[illegible]の神を[illegible]を[illegible]

[illegible]を[illegible]

[illegible]の服をゆり[illegible]ち　鶴石

[illegible]年の[illegible]　朱之

盛[illegible]の天の山松[illegible]　峯載

[illegible]の[illegible]　素仁

[illegible]の[illegible]の[illegible]　三年

ゆきのまへをまゐるや神のうしろ　霞山
ふりかへる梅あらし梅やうら鶯　云政
こぼれ梅手折し梅の花　如瓢
七種をうち清や八百屋が菜　国十
新月やおぼろ月夜を明の春　百里
古麓夜を寝て来るや桃の花　桃村
楼上のうめがゝ清や春の風　木芳
ふきおろすや吾妻細き船の窓　竹嬰

垣ぬしや明くれし也月と梅　竹若
梅がらぬ枝のゆかりや蕾のうち　古嘯
元日や扇子折そへ床の花　八束
松の声ま猿山清めて初日の出　新文
花に紫に日影のそむ梅か花　不及
花の香や柳うへかへし山かゝる　春湖
末を摘て南鐐庵や梅月　淀山
奥ゆかし神の扉も明の春　一葉

春の海さゝ波たゝぬ朱山　一景

芳草やまつきり清る春の雨　猪石

ゆきたけなく雲うつる市の雑　茶碗

芳草や春の〳〵ゆく義の舟　如雀

佳保姫の明戸ゆふ日和うれし　風逸

明るゆ清ぬくもやゆ玉　横旭

今つゆや出ゆ春の清ゆ　巳有

明る積て春流ゆ時升　比呂

ゆ春や紫樹ゆ春日の雨　市頂

ゆ蔵や羅ゆ一筆の弁　雪堂

ゆき人と知ゆ春ゆ孔　雨先

樹もゆ春遊ゆ一樹光　函蔵　蕙玉

茶ゆ春や新緑ゆ春れゆ弱　空儿

ゆ春の春作ゆ初日ゆ孔　徐蓬

御老自賀

祝る日幾も重なり厚石
高砂おもひ仮うきて唐森 一鼎
小田の雪の霜の雪とあめきて 清山
筏さしてそなたの下流 忠白
月は満ち満る四十望日の雨 丹我
きき おもひく 移る 春 百元

夢書書柿書書書書書 孝載
別 よ さ も く 言 仲 の 外 仲東
酒 り 札 弾 書 扇 屋 の 高 春洲
作 き つ ま 作 後 焼 の 鯛 黙平
見 秋 様 ま ら 羽 後 い 行 付 書 水壺
う 作 う り は も き つ ぬ 物 ま 人 素水
月 え る い 月 り 対 る き 桟 敷 向 乙外
松 の 外 中 く 蘭 歩 る 山 き 雄

左蓋の茶うす 陰きはたく 置　穿山
うつくきうれたる白髮　丈夫
芝日和うつり 降く 霧のけく　高山
笠の水よ 氣 移す　燈　林南
雅筆よふんきの西行忘　東之
空蟬 歌 ちやうす 中よ　住吉
身きしの 国ちゝね 勅めう　叢民
望しきまつく 海一寺　文界

護外
美花
粉市
林詩
叢山
魚
龜海
芳叶
桃庵

家井の 形 ちはうく 仲く
きまれく 馬きまく 学る
家物 写 崖きく
いつきの 新の 物ふ 蛙
ふん 結うる 蛙 義の 約一 麦
きつく 麦の 粉く 魚
月のきす 巖よ 汐の 引 紙
あれうしうら 風ちふ 秋

清めくゝ葉旬を深かり星河ゟ　露香
称ゟゝま然つゝ丁稚ちゝらを　素氣
祥勢僕の閑ゟ難へいゑらひまゝ　洒旗
手以てゑ声あり　孫生鈴日　子守
待受き出も閨の契し加波　秀以
聞船ゟゝま　きゝゝ来　離く　桃渓

途中

荻の声ゟ隣して河嶋ゟ　岑哉
ゟゝ橘子舎の河ゝる戸口の　綾石
桂建日梅をゝる　霧露り　哉
たゝひく春緒のゝる千まの　石
今晩ゝゝも家時の清ら明　哉
いつまり来る人のとまらぬ　石

ウ

利根川をこえて松井の渡り　栽

まゝ川あさは降らぬあつらし　石

宝殿の浅霞の社ふる之の神　栽

内陣額の文字に口つらぬ　石

ゆづりきを皆たくさん祝ちて　栽

糸引ふしをうたふ国　春　石

きたらぬ旅は蓑笠月の草　栽

たかくつみけく去さ府中作し　石

蜻蛉釣とんぼの鉢管通りける　栽

拾ふて竹のせんさくきほる　石

買切の機嫌広さ出の新　栽

錦の衣おもふら　うち継ぐ　石

二ヲ

牛来りて給ふ　藁菜を組て　、

寂しさふ　能うら　楽しめ　雪　栽

定紋の四ツ目ひょうたん張もなし　石

昼顔まとり　咲あまる　畑　栽

いつまでも続く日和の作まで　石
風もなく雲もなく鶴鳴く　載
夫八の名山よ澄まいまり　石
年経つる松の色春　載
家々磯に成る海の物思ふ　石
うつくしく春の行屋八も高き　載
蛙ふいちく横笛の音の波　石
敷けば家波鶴よ鳴く雲雀　載

ゆく秋よ医者人物の若時を　石
後の世にし潮騒霊あり　載
新しき出小屋の梅のまんなかに　石
切帰りよ春の水　載
うんうんうんうんうんの山の色　石
松虫しりあく世界のまち　載

甘き物を山家の素浪やうきむ宗　宋之

物うれて屋の一つる一舞　繊石

郭一田の五形きれる繊入る　之

さつきを物を拾きの義　石

細くをを屋のたしうる秋の月　之

寒のしを来るあるしやを宗　石

ウ

昭和の清吉を船のとき寒う　之

寒くをを世をるたをを吟をしら　石

名物あく一舞宿和の清をを　之

物をく寒の文句をうしき　石

水をを水を寝物の塚蓋　之

ちら機嫌をを寒の吟　石

をををを山寒の一たを紙をら　之

寒月吟一山社のを　石

烏啼明て人むかふ娵の来る　足
膏薬ぬりも丁稚らしき　石
花の絵簾明はなれ春きこゆ　足
蝴蝶好む鼻を吹まくる東風　石
二ノ
甚出しの馬さえかへりてむき直る　、
ちるも豆腐も名乗る節句の日　足
錦文の娘きよらに流れて　石
流るまに眉の作れる浅瀬　足

一しきり誰る時雨に雨やどり　石
内にうつ庭寒きへまんまる寺　足
手向の字の絵女の矢を抜ぬ　石
浅ましく亡きは夜ぬ気のまゝ　足
いつまでも尻の尾のまるの咲し　石
咲ぬの棗もやさ栗さしき　足
半月は紅葉いろつき小倉山　石
むさしのまぬけし鹿の二の声　足

[illegible]の[illegible]遠[illegible]ゟ遠[illegible]
不問お[illegible]遠[illegible]
[illegible]
国二角ゟ[illegible]き
[illegible]
[illegible]義の[illegible]

石
芝
石
芝
石
芝

[illegible]
元ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]尾張 菜水
市神の[illegible]雨 霧 [illegible]
戸[illegible]ゟ[illegible]浦の[illegible]乙也
元ゟ世の[illegible]京 於水
箱ゟ[illegible]京 [illegible]原 [illegible]岳
[illegible]
[illegible]ゟ[illegible]一ゟ 桶大坂 菓也

菓

五形色 音コ 零鼓

夫昭八あるを人ゆゆ 簫卜

阿陸ゆゆ筆の筆ゆゆ芹蓄 イナハ 西畿

先物の物 出雲 宮内

結ゆゆの繋ゆ筆筆 紀伊 紀多雄

物ゆゆ世物を陸ゆ筆菓ゆ 加賀 晩雪

ゆ雲ん物を夢ゆ物の物 ムサシ 立渡

川柳ゆ物の物ゆ人ゆ物の 出羽

掃部ゆ元日ゆゆ一ゆゆ 江戸 北壹

元日ゆ行ゆゆ物ゆ親ゆゆ 田乐

記ゆゆゆ一月ゆゆゆ出夢ゆ 亢

門ゆゆゆ年ゆゆ相互 素民

夫筆ゆゆゆゆゆゆ在ゆゆ 笠下

江戸物の物ゆゆゆゆゆゆ 飛騨

寝ゆゆゆゆゆゆゆゆ蓄物 御徳

先ゆゆの殺ゆゆゆゆ小物引 古華

その木より先は月行り梅の花　素水
梅さくや築し揮居の墻手　一淳ら
梅さけり月もあそぶ木も黒なり　呆一
夕潮や川よりも行きる遠帆　酒旗
麓建る流れりしきさ衣柳永　新寿
黄昏やまつ青あみきて不雷哉　芳洲
桃へ下りて笑らしうあをりの里　子芳
手まくらや花の名残の酒労さ　見外

月影や寝くれ舟に萩桜　東休
陽炎や宇こきは流る水の音　本和
井戸掘に流るる古き人春の雨　三水
阿らのしめ之迄よしや種卸　松兎
我よぶ稲るゆく人のうしろ影　吾世
蛙なく淀は夜かれて鳴　芦城
あく来て路も遊人汐干狩　林甫
まきあかる人まさきせて夕桜　古稀　芋巴

井戸端の雪踏の跡の老　上毛　琴堂
ふきさらしの雞小屋　新撰　飯原
黄色なる時雨出たるの夫婦　雜詠　市猿
梅の花ちらしたる庭の乳
絵書いて大和の国の雪　雪山
つれ打つ時雨新の雀　上総　雲一
年玉やさるみの有変　敵月
後先や梅の見ちらす柳原　亞村

元日や明るきこうろ出たる　雷山
あめ生ふ菓子貝剣や物の光　公義
梅を出たる新よりおきなり　掃物
後先なるなれば稽の新　敵月
ふる雪ふる雪の白山　市耕
ふるやさく時うくやきき雑う乳　雪貢
元日の日社あるる書　延壮山

友之歌

紫雲の春のこゝろを紀川 京 稚山

枝をくゝ月いちしるき子規 芹舎

時鳥なる時ちらくん一五夕 梨垂

初の松を陸の松を蔭の蔭 文海

井海や鶏の鳴き絶えぬ水 自出

蛍ぬらす出しの宮の蛍 嘉左

春のゆくり出まく雄しき 海水

[illegible] 字尺

[illegible] 九峰

[illegible] 羽海

五月雨の[illegible] 三枝

[illegible] 海

[illegible] 泡隈

[illegible] 未之

[illegible] 乙義

[illegible] 沢年

ぬりあらく雲の足遠く霧うゑ　子規

時々あるや末枯の篠藤　華兮

今一度投く濁りや井の波　宵山

きつ寒や蝶とぶ分ぬるち　物旋

蓋はゞ戸もゆつし敷霧夕雲　友史

歌隠るゝ樹やそらう雨　宋旭

起きれるれい人寒一青嵐　水白

作陶ゝ小井ゝ寒し花園扇　越山

拾ふ人樹新ゝ寒し園扇うゑ　拾布

隠しゝ寒はゝ樹ゝ寒つゝ　路平

樹ゝ木の下陰ゝ寒し寒ゝ　仙月

寒い霧の中ゝ寒ゝ蓮の花　義外

松峰のゝ寒ゝ寒ゝ　宋美

黄金の生餅ゝ寒ゝ苔の花　土休

反秋の月ゝ寒ゝ寒の物ゝ　文昇

寒ゝ寒ゝ新蕎人の寒ゝ月　秋中　廿雨

きゝ鳴もあき初声やあくまでは　甲斐 竹良
浅草寺数月代や出来所　天老
人柳や猿ひく出ても過る庭　寿郎

摂海浮岡中

けふまでは文なしの月やもの松魚　赤穂 与雅
鶯の声は未だ深き見ざるらし　作州 精司
見くも又夜めくらのや浮り手桶　此一
涼しさや鶴が飛ぶもけふかな　来香

白露や行きたなる あくまでは　出羽 桂仙
鶯の子は羽根の行柳や青嵐　有月
握て折る手雉や世の声　璞山
河らしき探手摘やもの松魚　上毛 梅綃
黄色や深山の春走き鳴　祥童
庭のまゝ畑から浮く織の音　我明
うち浮る葉の葉かや青あらし　乙瓢
宮き見え舟綱くや あくまでは　下毛 茂精

五月雨の空もうち曇る山の袖　巣欣

ちぢにあらぬ義経あるや泥の嶋　旭翁

ちぢの秋の義経いかに知る　巣哉

ちぢにあらぬ秋の清きやかの蓮る　石明

日本橋にて

富士もちぢに筆もうるる五月晴　伊勢　巣義

降ちぢに楚を組あらぬ今手伴　ムサシ　素眠

ちぢの秋の紅葉や書ひらし　知秦

秋の新

今朝の門に思ひ出でる秋の水　ムツ　一止

ちぢに鳴くうるる秋の空　如水

二筋芽の葉の青ちぢの秋　テハ　李山

波青し学ぶ北川　竹雄

月の落る信濃の早稲蒸　鶴歩

新米のちぢに人の呼ぶ　素川

元吉やしく佛しく寺の女郎花　江素

殘せる事の多ひ法く宿の裏空　星峰

早稲しく手枯あや雲中月　月蘭

月うそる築山めく紅葉　友甫

人つそめ殘年く今秋ニト　秀香

末のつゆ人まそれ年きそり　美春

東山の寺りそや冬の月　史素

遥りやの秋きみすむそり　永樹

新蕎の蕎きそや稻すり　月朶

そそる寺行りそそや風仙寺　獲外

孔竹る月行年雨や海の行く　素山

水宮うち寺そうそ奥ふ西所　弘海

稻の寺や里尺そ和ち江下り　海堂

うけ稻やうそふのそき一り松　友雄

義る菓の巻寺や家竹雨　弘美

名月や和りる寺ち芦之橋　素海

時雨かな月代うつる森の陰　落合

降ぬるは物ぞ哀なる菊の露　芳泉

除うち払ふ庭の秋の色　椒鹿

秋ぞかなうあるものゝ所也　上総　他山

生れぬる月数かな撫子や玉　水堂　深雪

涼しさん出ぬ一紫舟　柏園

早稲の穂や新米ぬる稼の先　越後　菱堂

色ぬる牡丹の涼の月の雨　葉庵

見ぬうつしかうつしの月のうつし　加賀　徑雪

秋の懸寝ん所ぞ歩る雲　カヒ　香芸

おもかるかうつしの雨　九江

八重咲ぬる寄麦　スルガ　九成

秋妻ぬるの百姓　遠江　養山

秋ぬる又出ぬる月　尾張　乗雪

名月の雲ちぬる鶴ぬる　梅程

千組ぬる時の雲　糸　茅子

裏の戸も閉ぢ人あまた月数（セツ）一 京
松ちれぬ行くまゝ（大坂）南歌
むしろ敷き寝ぬる時のうち 京屋
手枕に宿より別（イヤハ）庶波
山風に松のうへ三日の月（イツモ）秀逸

冬之部

冬よあるべき人まも紅葉牡丹（京）乙米

木の葉ちる里の人 淺草
冬籠り松の戸たゝく梅の人 大坂 杜鵑
冬籠り夜の雪に人の来ぬ 大和 乎石
降る雪に見えぬ人の来られうを（イヤハ）巴大
冬籠り人まつ時の時雨（九条）子紹
降る雪に松のうへの夕雲 危水
松の門清き雪に蓑ぬ史 宗和
人出けるまゝの巧の巧 巨樵

[illegible] 籬 接 素外

[illegible] 蓬島 茅ヶ[illegible] 春の雨 峯の山

[illegible] 月[illegible] 金花山 也之

[illegible] 松の里人 吹の神 鈴 仲大

[illegible] 時鳥 入[illegible] 南 向 末甫

[illegible] 一筋の[illegible] 桐林

吹[illegible] 月の[illegible] 小松

新 毎[illegible] 和[illegible] 指の雫 [illegible]

[illegible] 時雨 柳石

[illegible] 芝接

[illegible] 越后 琴麿

[illegible] 松濤

[illegible] 清月

[illegible] 小松 吹 イツ 走水

上 [illegible]

[illegible] 一載

せいこの座をうれし餅の吉　秀峰

夕暮る足袋ぬぎ捨てし松庵

秋ものこ重きを肩に大根うれ　鶴巣

寒る日や義塾の雪の新く吉　武栗

こそ形のあの巣鶴や冥土雉　葵徐

雪ちるやうつ蕎麦屋の人出入　吉園

雪ぬ月や夢の餅を拵内猫　嵐雪

庭の庭大根ぬきせつめうう　走雄

ゆうこそうれ人の夕鶴　雄井

夏初や鬼を行ふる人も形し　且雪

二年ぶりふる人の後弥角き　松園

ちつ角ぬ足をぬる巣日和　峰東

家内中苦労ふ形大根引　巣雄

うい根きを行ぬ鶴や和ふ冬　三永

先角の今きふ人ぬ少ふ冬　雄角

きちうふ人を出ぬる時ふ丸　沼水

黄昏ふる元吟くまく月ちれるを　霞山

社業組巻の巻りや除寒者　雪年

後吉の松よい春あれく友ちり　岩子

松峰知らく春ちしの志ちり　世外

雑巻く人巻ちり春れ巻れ外　大臣

降ちの吉巻ちめく　孟子　酒　新伍

行庵ん小第ちり　除夜の句　子外

歌

家代通稱一井印乃主猪石雅子巻社友乃中ちを
唐商と飾り新金の心と結ふ交巻歳ちぬすのち
世賀集乃世信やさふ巻いちく標記事をすの世
南ちたのくの郷乃峰宗巻ちん巻乃井長生と一緒
宿初よ初ちく一井集と鶴ちく巻南なち通
と寿代巻月乃頃道ち巻ちり打ちと府尾再建乃
工商ち寿ちん吉工沈西霧と志のく南ち皆やつく

まことみすぼらしき物ゝ山乃道たゞ荷擔と
ゆうゝ美千乃物を棄ゝ再生れるようと願ふ
りて涙ながら志と仕作る嗚呼かゝる人ゝの感謝
この文つゝ為ゝ物ゝ那今も忘保

芳我

[illegible]

The
Wrapper